

MY BEST DISC 2014

そうだ
新譜、
聴こう。



Henry Butler Viper's Drag

ニューオリンズを体現する、なんでも弾いちゃうこった煮ピアノ、ヘンリー・バターとスライド・トランペットのステイヴ・バーンスタインのがっつりコラボ作。オールド・スタイルな9ピース編成でトッド・ジャズのスタンダードを。しかし、現代の感覚でナイス! こぞんまりしているのが玉に瑕。(しらきたかね)



Fabian Almazan Rhizome

ファビアンは強烈な個性が全面に出た素晴らしい1枚。ヘンリー・コール、リンダ・オーの作り出す刺激的なリズムの中に、怪しくそして美しく配置されたストリングスは正にファビアンの分身の如き。チリ出身カミラ・メザの歌声は今日のジャズシーンに無い独特の響きを持つ。(川上陽平)



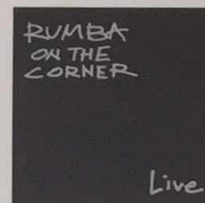
Polly Gibbons Many Faces Of Love

2006年にBBCジャズ・アワードを受賞したUK出身のポリ・ギボンズは、スモーキー・ヴォイスでソウルフルに歌い、バラード歌唱も素晴らしい本格派。5作目となる本作は、タミール・ヘンデルマン(p) アンソニー・ウィルソン(g)らがサポート。付属のDVDも秀逸。(Wishy-Washy 杉本謹一郎)



Avishai Cohen Dark Nights

アヴィシャイ・コーエン(tp)のトリヴェニ3作目。あまりのカッコ良さにクラクラした。まもなく酷暑も和らいでようかの時節に聴けたのも良かった。湿った空気とダルい身体に染み渡った、心地よい濁き。ジャケも最高にクール。(たごともえ)



Rumba on the corner Live

関西出身のベーシスト守家巧を中心にDCPRG等のジャズバンドやラテンシーンで活躍する一流メンバー7人が集結。初ライブを収録した臨場感溢れる内容で、四つ打ちトラックから高速クロスオーバー・ジャズ、エフェクトを駆使したダブ路線までありそうでなかった日本発のグルーヴィーサウンドが満載。(大塚広子)



Colin Vallon Le Vent

さまざまな国籍と世代の音楽家らが交錯する昨今に一年を振り返ってみたときに浮かび上がってきた一枚。優しい音の食感ながら味わうたびにその旋律の奥深さに感心することしきり。今後の活躍にも期待してこの一枚に。(タワーレコード難波店 稲田利之)

「風の通り道」と題されたコリン・パロン4枚目のリーダー作。既存の音楽のどこに水脈があるのが、まったく掴めないことで、余計な思考回路を使わずに旋律に耳を奪われる。時間とともに消えていく音をこんなにも追いかけられる楽しみを得られる音楽も類を見ない。マンフレート・アイヒャーも大推薦のアーティスト。(SONG X JAZZ 宮野川)



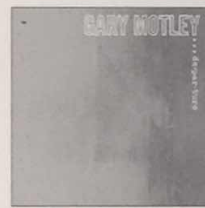
Ryan Kelsoe Into The Blue

各人の縦横無尽のソロ、その上で繰り広げられるとてつなくハイレベルなアンサンブルが、ピタメンスという編成を最大限に生かした、社大な景色を見せてくれる。サイドマンの経験が豊富にあるメンバー達だからこそ、ここまでのアンサンブルの領域に辿り着いたのではないだろうか?(関広美)



Jan Harbeck Variations in Blue

ベン・ウェブスターらに影響を受けたデンマークのテナー奏者ヤン・ハルベックの3作目。モダンシングスタイルのハルベックが現代のジャズシーンを牽引するウォルター・スミスIIIと共演し全編ミディアムテンポで太く厚重なトーンが聴ける。1曲目のエリントンナンバーでもう心を揺さぶられます。(レコードワン 中村学)



Gary Motley Departure

素っ気ないぐらいなジャケット。でも気に入っている。ドラマーのテレオン・ガリーに惹かれて買い、実はそんなに期待もしていなかったのにすぐにヘビローテ盤になった。甘くなくともユルい、そんなアルバム。2曲のヴォーカルがアクセント。押しが強いから聴き飽きない。ま、これが僕の2014年。(中川ワニ)



Jimmy Cobb Original Mob

メルドー参加!これだけで購入意欲がそそられますが、大御所ドラマーがリーダーというもあり、いつものメルドー節は抑え気味。全体的にオーソドックスなハードバップですが、5曲目をはじめ随所に彼独自のフレーズを聴かせてくれます。自らを抑えながらも個性を失わない。そんな彼のプレイを聞ける貴重な演奏。(近藤寛)



Mehliana Taming the Dragon

ブラッド・メルドーのピアノトリオに慣れている人には、とても衝撃的。いつものメルドーの天才的なアコースティックの響きを聴くことはできないが、フレッシュでエキサイティング。重いキーボードのペーラインに絡むロックのようなビートソング。彼は前進を恐れない勇敢なアーティストだ。(ジェン・フォレスト)



David Virelles Mboko

ヴィレージェスの故郷キューバの土俗音楽、呪術信仰がテーマになっているけど、ベースファンとしてはトーマス・モーガンとロバート・ハーストの2ベースがポイント!自由に欲しい音を求めるトーマス、ボトムを支える大先輩ロバートを比較すると、新しいベースのプレイスタイルの1つがよく分かんと思う!(細見光弘)



Takuya Kuroda Rising Son

日本人として初となるUSブルーノートと契約した話題作。前作よりもアフロソウル等、幅広いジャンルを取り入れられた本作ですが、ストレート Ahead好きなジャズリスナーも物怖じせず聴いて欲しい。しっかりとジャズが手綱を握っていることを感じることはできるはず。身体を揺りながら浸れる一枚。(Penny)



Charlie Haden & Jim Hall

今は亡きデュオの名手2人による貴重なライブ音源。追悼の気持ちを込めて購入したアルバムですが、録音は1990年ということで、円熟しつつもまだまだ若さ溢れるジム・ホールのプレイを聴いたら、悲しい気持ちになるというよりも、とてもドキドキワクワクさせてもらえました。(びわこジャズ 森鉄兵)